

## 38 消毒をしない CAPD カテーテル出口部ケアについての評価

医療法人慈泉会 相澤病院 腎臓病センター 丸山貴代  
中村ゆかり 上條しのぶ 高森千代 小口智雅

### 【はじめに】

当院では、H15年12月よりCAPDカテーテル出口部ケアに消毒液を用いないで洗浄のみを行ってきた。そこで、出口部感染及び腹膜炎の発症頻度を調査し、この方法による評価を行ったので報告する。

### 【対象及び方法】

H14年2月からH19年6月までの期間で当院に通院していた腹膜透析（PD）患者22名を対象とした。男性14名女性4名、平均年齢52.3歳（20～77歳）、平均PD歴26.3ヶ月（2～56ヶ月）であった。原疾患は、慢性糸球体腎炎14名、糖尿病性腎症6名、腎硬化症2名である。

対象患者をH15年12月以前で消毒をしていた患者（P群）とH15年12月以降で洗浄のみの患者（S群）とに分けた。P群は13名、のべPD期間：152ヶ月である。S群は18名、のべPD期間：385ヶ月である。このうち消毒していた期間と洗浄のみの両方の期間を経験した患者は9名いた。（表①）

	P群	S群
分類	H15.12月以前で消毒していた患者	H15.12月以降で洗浄のみの患者
人数	13名	18名
性別	男性:9名 女性:4名	男性:10名 女性:8名
のべPD期間	152ヶ月	385ヶ月
DM患者	4名	7名

（この内、両方を経験した患者：9名）

表①

観察期間中のP群S群の、出口部感染及び腹膜炎回数を過去にさかのぼって、電子カルテより調査した。出口部感染の有無は、国際腹膜透析学会ガイドラインに従って判定した。また、患者に出口部ケアの実際について聞き取り調査した。

表②は、国際腹膜透析学会ガイドライン（2005年）の出口部の評価スコアである。出口部の評価スコアで4以上もしくは、膿性滲出液が認められる場合を感染とした。

### 出口部の評価スコア

（国際腹膜透析学会ガイドライン 2005年）

	0点	1点	2点
腫脹	なし	出口部のみ； <0.5cm	>0.5cmおよび またはトンネル
痂皮	なし	<0.5cm	>0.5cm
発赤	なし	<0.5cm	>0.5cm
疼痛	なし	軽度	重度
排膿	なし	漿液性	膿性

表②

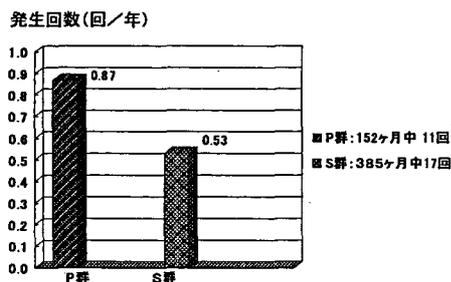
### 【出口部ケアの方法】

P群（H15年12月以前）では、出口部洗浄後、ポピドンヨードを綿棒に塗布し、出口部を消毒。その後、ガーゼにて保護。テープまたは腹帯などで固定した。S群（H15年12月以降）では、出口部を洗浄するのみのみで、消毒は行なわない。ガーゼ保護は原則として行っていない。固定方法は以前と同じである。

## 【結果】

P 郡の出口部感染発症頻度は、152 ヶ月中 11 回あり、年に 0.87 回の割合で発症した。一方 S 群は、385 ヶ月中 17 回発症し、年に 0.53 回の発症率であった。

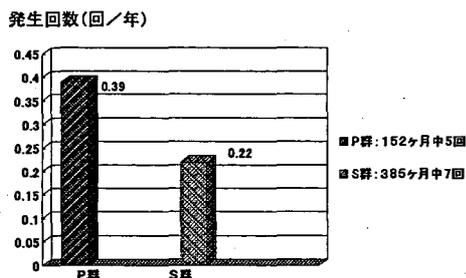
### 出口部感染発症頻度



表③

表④は、腹膜炎の発症頻度を表したものである。PD のべ期間中、腹膜炎発症頻度は P 群で 152 ヶ月中 5 回あり、年に 0.39 回の割合で発症した。一方 S 群では、385 ヶ月中 7 回あり、年に 0.22 回の発症率であった。

### 腹膜炎の発症頻度



表④

## 【聞き取り調査より】

H19 年 6 月現在当院通院中の CAPD 経験者 11 名を対象とした。

- ・洗浄のみに対する不安についてであるが、消毒するから洗浄のみに変更した患者 5 名中 4 名と、最初から洗浄のみの患者 5 名中 5 名は、洗浄のみの出口部ケアに不安はなかったと答えた。
- ・洗浄のみの変更不安だった 1 名は、他院での

導入時消毒の重要性をきびしく指導されたこともあり、最初不安で洗浄のみにできなかったが、洗浄のみでやってみると快適でよかったと答えた。

- ・消毒するのと、洗浄のみの両方を経験した患者 5 名全員が、洗浄のみの方がケアが楽で良いとの回答を得た。
- ・ケア方法の理解度であるが、変更した 5 名中 5 名が、消毒する方法より洗浄のみの方が簡単に分かりやすかったと答えた。また、最初から洗浄のみの患者も、洗浄のみのケアは、難しくなく理解できたと答えた。
- ・出口部感染を 5 回発症した患者は、体を洗う時に出口部も一緒に洗い、湯船から出た風呂上がりには洗浄を行っていない時があったり、毎日出口部ケアをしていない時があったと答えてくれた。
- ・長期にわたって一度も出口部感染を発症していない患者 2 名は、丁寧に時間をかけて洗浄しているとの回答も得られた。

## 【評価・考察】

- ・消毒を用いない洗浄のみの出口部ケアを行っても、出口部感染及び腹膜炎の発症頻度は増加していないので、今後もこの方法を継続しても良いと考えられる。
- ・ポピドンヨードを使用しない為、ポピドンヨードによるかぶれは、発症しない。
- ・消毒剤を使用しない為、コストがかからない。
- ・聞き取り調査からも、洗浄のみは患者にとって、理解しやすく、簡便な日常ケア方法であると考えられる。
- ・洗浄のみの場合、毎日丁寧に洗浄する事で出口部感染が少なくなる傾向がみられた事により、丁寧な洗浄は出口部感染減少につながると考えられる。
- ・逆に、出口部感染を頻回に発症する患者は、洗浄方法に不手際が考えられる。
- ・感染率低下の為には、出口部ケアの看護師の指導が今後とも大切だと考えられる。

## 【結語】

ポピドンヨード消毒を用いない洗浄のみの出口部ケアを行っても、感染頻度は増加しない。また、患者にとって簡便であり、コストもかからない方法である。

**【参考文献】**

- 1) 古谷隆一 磐田市立総合病院腎センター  
カテーテル出口部石鹸洗浄の効果  
透析会誌 34 2001
- 2) 高橋淳子 借行会セントラルクリニック  
各種出口部ケアの方法と特徴  
腹膜透析 2002
- 3) 井口良子 光晴会病院北3階病棟  
よりよいカテーテル出口部の維持に向けての検討  
腹膜透析 2006
- 4) 国際腹膜透析学会ガイドライン  
腹膜透析関連感染症にかんする勧告：2005年改訂